

## 全校朝会 校長講話【9月10日】

### 「人が前に立ったら、黙然静聴」

先週の始業式は、新聞社やテレビ局の人がたくさん来て、関台小の始業式の様子が全国ニュースで流れました。テレビのニュース番組で見た人も、このなかにいると思います。

そのときに来た、新聞社やテレビ局の人たちから、関台小の子供たちは、「よろしくお願ひします」と言った後の「礼」のが揃っていて、気持ちがいいですねと褒めていました。

1学期からみんなで取り組んできた「語先後礼」。挨拶をする関台小のみんなが褒められて校長先生はとても嬉しかったです。

さて、今日は、この2学期に、新たにみんなで取り組みたいことのお話をします。それは、1学期の終業式にも少しお話しましたが、「黙然・静聴」という話の聞き方です。

6年生のみんなには、始業式の次の日に、「黙然・静聴」を全校のみんなで行いましょうと話しました。そこで、6年生の代表の人に「黙然・静聴」の意味を説明してもらいます。

まず、「黙然」です。

(1組) 「黙然」とは、何も言わずに、黙っている姿を言います。先生、友達、話す人が前に立ったら、自分から話をやめて黙りましょう。次に、「静聴」です。

(2組) 「静聴」とは、静かに話をよく聴く姿を言います。先生、友達が話し始めたら、相手の目を見て話を静かに聞きましょう。

6年生の代表の人、説明してくれてありがとうございます。

「黙然・静聴」。集会でも授業でも、先生や友達、話をする人が前に立ったら、「静かにしましょう」と注意されなくても、自分たちから口を閉じて黙って、話を静かに聞くようにします。

この「黙然・静聴」は、相手を思いやる態度とも言えます。話をする人は、みんなに聞いてもらいたいと思って話すのです。それを黙って聴く姿は相手を思いやる姿だと思います。

2学期は、全校朝会でも授業でも、前に先生が立ったら、友達が立ったら、「黙然・静聴」です。みんなで、「黙然・静聴」と言ってみましょう。

では、「黙然・静聴」の言葉を1年生から5年生の代表の人に渡しますのので、前に出てきてください。

みんなで、「黙然・静聴」ができるように頑張っていきましょう。